

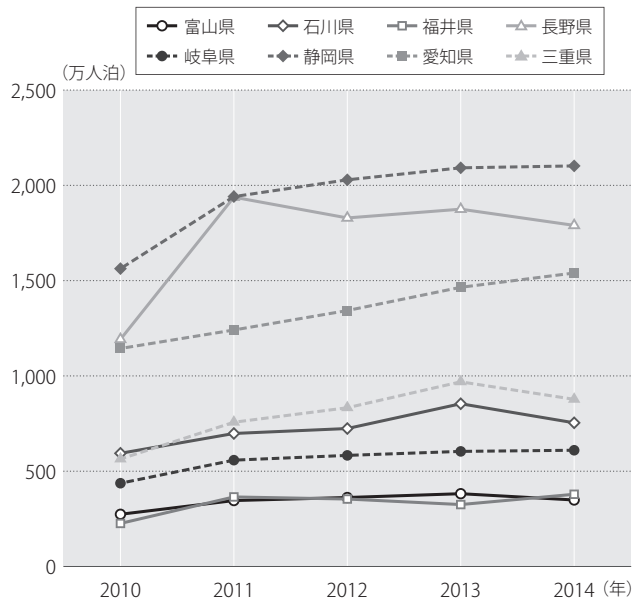
## 4 中部

富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県の観光地の動向  
北陸新幹線開業に伴い沿線地域の動きが内外で活発化

### (1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると14年1月～12月の中部各県の延べ宿泊者数については、中部全体では8,403万人泊となり、前年比1.9%減（163万人減）となった。延べ宿泊者数が増加したのは、福井県（前年比16.6%増）、愛知県（同5.1%増）、岐阜県（同0.9%増）、静岡県（同0.5%増）となっており、減少したのが石川県（同11.7%減）、三重県（同9.2%減）、富山県（同8.7%減）、長野県（同4.6%減）となっている（図IV-4-1）。

図IV-4-1 延べ宿泊者数の推移（中部）



県	2010	2011	2012	2013	2014
富山県	274	346	362	382	349
石川県	594	698	724	854	754
福井県	226	365	354	325	379
長野県	1,192	1,938	1,829	1,875	1,790
岐阜県	437	558	583	604	610
静岡県	1,563	1,941	2,029	2,092	2,102
愛知県	1,144	1,241	1,343	1,465	1,540
三重県	564	757	833	969	879

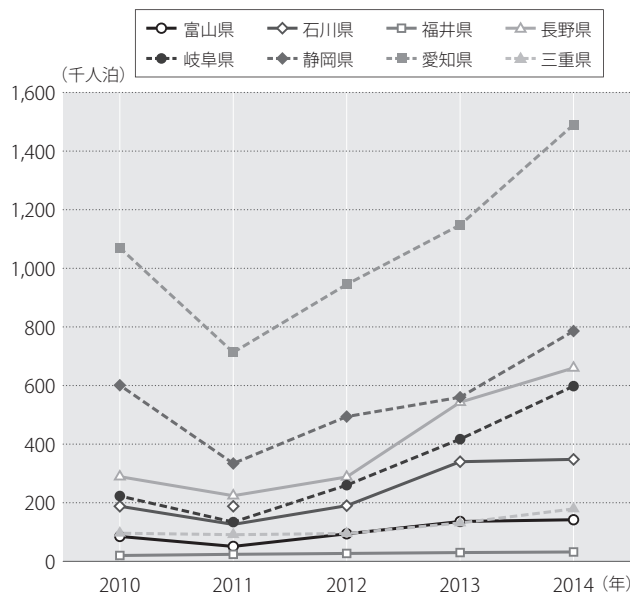
※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位：万人泊  
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成26年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

一方、外国人延べ宿泊者数については、中部全体では423万人泊となり、前年比28.1%増となった。増加したのが岐阜県（前年比43.4%増）、静岡県（同40.5%増）、三重県（同36.4%増）、愛知県（同29.8%増）、長野県（同21.6%増）、富山県（同4.2%増）、福井県（同3.9%増）、石川県（同2.3%増）となっており、中部では全県が前年を上回ることとなった（図IV-4-2）。

宿泊者の国籍別の構成については、富山県、石川県、福井

図IV-4-2 外国人延べ宿泊者数の推移（中部）



県	2010	2011	2012	2013	2014
富山県	85	51	94	136	142
石川県	188	126	190	340	348
福井県	20	24	27	30	32
長野県	289	224	288	543	660
岐阜県	223	134	260	417	598
静岡県	601	334	494	560	786
愛知県	1,070	713	945	1,148	1,490
三重県	96	91	95	131	179

※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位：千人泊  
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成26年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

県、長野県、岐阜県、三重県は台湾が最も多く、静岡県、愛知県は中国が最も多くなっている。

中部において外国人延べ宿泊者数の伸びが最も大きかった岐阜県では、これまで多言語対応のパンフレット作成や海外での国際旅行博への出展、知事によるトップセールスなどを展開。その成果が徐々に表れてきたものと考えられる。その他、14年には、「飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト」の一環として、成田空港などに到着する外国人観光客の誘致を目的に、欧米豪の現地旅行会社15社を招請した。15年3月の北陸新幹線金沢延伸により、首都圏から北陸への利便性が向上することから、北陸エリアと連携して実施したものである。岐阜県内では、東海地区外国人観光客誘致促進協議会岐阜県部会がインバウンド商談会を高山で開催するなど、訪日誘客の促進に向けたさまざまな取り組みが継続的に実施されている。

### (2) 観光地の主な動向

#### (地方・都道府県)

##### ●富山県による「大人の遊び、33の富山旅。」

富山県は、北陸新幹線開業に向けて、県内の観光地を新しい視点で楽しく巡ってもらうことを企図して、“ココロとカラダを休める”をコンセプトにした体験型観光プログラム「大人の遊び、33の富山旅。」を発表。首都圏からの誘客を試みる。13年秋より開始したもので、14年春には、33コースを提案した（表IV-4-1）。

表IV-4-1 「大人の遊び、33の富山旅。」のコース内容

コース内容	2014年春
01	八尾職人めぐり散策with八尾曳山 曳山展示館
02	ます寿し味比べ、松川ピクニック 松川周辺
03	山町近代建築探訪with高岡御車山祭 山町筋
04	絵になる美町・城端散策with城端曳山祭 城端駅周辺
05	散居村の真ん中で、チューリップ・ラブな町歩き チューリップ四季彩館
06	ノスタルジックに浸る、小杉フォト散策 小杉駅周辺
07	薬膳グルメと至極の富山スーベニアめぐり 池田屋安兵衛商店
08	八十八&護摩堂山歩きで楽しむ、匠の摘み草料理×森のリトリート1 和風オーベルジュ 八十八
09	大岩そうめん&花の家で楽しむ、超ヘルシーグルメ×森のリトリート2 大岩そうめん&花の家
10	高岡昆布飯&昆布スイーツに学ぶ、美味しい高岡昆布旅 高岡駅周辺
11	牧場×まちのパン屋、黒部の新感覚スイーツ・ピクニック
12	氷見カレーとまんがロードをめぐる旅 氷見市潮風ギャラリー
13	黒部のカニと旬魚を堪能、生地の漁港グルメと清水めぐり 魚の駅「生地」とれたて館
14	彫刻と寺院建築のミュージアム、井波別院瑞泉寺を誌上ガイドで楽しむ 井波別院 瑞泉寺
15	メルヘン&散居村、サイクルピクニック クロスランドおやべ
16	古代ロマンを楽しみ尽くせ、魅惑の縄文ピクニック 不動堂遺跡

資料：「大人の遊び、33の富山旅。」2014春パンフレットをもとに（公財）日本交通公社作成

### ●石川県による「日本橋・京橋まつり」での北陸新幹線開業PR

石川県は、「新幹線開業PR戦略実行プラン」に基づく事業として、14年10月26日に「第42回日本橋・京橋まつり」（東京日本橋中央通り）にて北陸新幹線開業をPRした。「大江戸活粋パレード」において、大トリとして石川県が参加。また、会場の一角に「いしかわ百万石楽市楽座」と題した石川県専用エリアを設置。県内市町などによるご当地グルメやお菓子、地酒などを販売した。

### ●福井県観光新戦略の策定

福井県では、16年度の中部縦貫自動車道永平寺大野道路の開通や、22年度の新幹線敦賀開業など、さらなる高速交通ネットワークの整備が進展した。18年には福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会や、20年には東京オリンピック・パラリンピックの開催などを控え、新たな「福井県観光新戦略」を策定した。誘客拡大の絶好の機会と捉え、福井県が持つ「ふるさと力」を結集し、同県観光を活気のある次のステージへと引き上げることを目的とする（表IV-4-2）。

### ●長野県での「信州 山の日」の制定と山岳高原課の設置

長野県は、14年3月に「信州 山の日」を制定することを発表。県土の8割を森林が占めることや、全国にある23座の3,000m峰のうち15座を有することなどから、「山」を県民の財産と捉え、「山」に感謝し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくために、7月第4日曜日を「信州 山の日」に制定した。また、14年度を「信州の山 新世紀元年」とし、「山」に関するさまざまな取り組みを集中的に実施。その推進に向けて、4月1日付で観光部に山岳高原観光課を設置した。

表IV-4-2 福井県観光新戦略の概要

項目	内容
基本理念	本県が誇る「美」や「学び」などを活かして、他の土地では味わうことができない「楽しさ」や「いやし」「心のうおい」「知的好奇心の刺激」などの感動を与え、観光客が笑顔になる旅、心に残る旅を提供することにより、本県の観光を活気のある次のステージに引き上げます。
計画期間	平成27年度～平成31年度（5年間）
基本目標 2019年目標値 (2013年現状値)	①観光客入込数 1,300万人(1,034万人) ②観光消費額 1,200億円(836億円) ③入込100万人以上の観光地 5カ所(1カ所) ④教育旅行受入数 10万人(6.9万人) ⑤外国人宿泊客数 10万人(2.8万人)
<b>基本戦略とプロジェクト</b>	
基本戦略1 極める	(1) 世界に冠たる「恐竜大国 福井」に (2) 一乗谷朝倉氏遺跡を世界文化遺産に
基本戦略2 輝かせる	(1) 「海湖と歴史の若狭路」の広域観光圏の確立 (2) 「100万人観光地」の整備 (3) 福井の食や食文化の魅力を全国、そして世界に (4) 新しい「福井ならではの」ツーリズムの推進
基本戦略3 繋げる	(1) 県内交通アクセスの利便性の向上 (2) 自治体間の広域連携・相互交流の推進
基本戦略4 伝え、動かす	(1) 首都圏などにおける新規顧客の開拓 (2) 近隣府県からのリピーターの獲得 (3) 県内交流の活性化と県民による情報発信 (4) インターネットを活用した情報の発信
基本戦略5 心をつかむ	(1) 感動を呼ぶおもてなし環境の整備 (2) 着地情報の充実・発信 (3) カワイイお土産の開発 (4) 地域や観光産業を担う人づくり
基本戦略6 世界から招く	(1) 各国・地域のニーズにあった誘客活動の強化 (2) 外国人受入環境の整備 (3) イベント・コンベンションの誘致推進

資料：「福井県観光新戦略」をもとに（公財）日本交通公社作成

### ●「銀座NAGANO」の開設

長野県は、14年10月26日に首都圏における総合活動拠点「銀座NAGANO しあわせ信州シェアスペース」を開設した。ビル1、2、4階を使用し、1階にはショップスペース&旬の信州味わいコーナー、2階にはイベントスペース&観光インフォメーションコーナー、4階にはコワーキングスペース&移住交流・就職相談コーナーが設置された。

### ●静岡県観光振興条例の制定

静岡県では、観光の振興に関する施策を総合的に推進することにより、本県の持続的な発展および真に豊かで活力に満ちた地域社会の実現に寄与することを目的とした条例案を協議または調整する場とする、議員提案政策条例案検討委員会の一つとして、観光振興条例案検討委員会を設置した。1月から8月までの6回の検討会などを経て、10月17日に静岡県観光振興条例の制定が議決され、14年10月28日に公布された。

### ●「岐阜県ハラルプロジェクトチーム」の設置

岐阜県は、14年にイスラム圏への飛騨牛をはじめとした県産品の輸出や、イスラム圏からの観光誘客などのために必要なムスリム対応について、アウトバウンドおよびインバウンドの両面から、官民協働で課題解決に向けて調査研究を実施する「岐阜県ハラルプロジェクトチーム」を設置した。県内関係団体および県関係課で構成。県農政部長を座長とし、本会議と幹事会



を設置。これまでに3回の本会議が開催された。

### ●愛知県における観光局の設置と観光PRのためのキャッチワードおよびロゴマークの作成

愛知県は、15年を「あいち観光元年」と位置づけ、観光により一層力を入れて取り組んでいる。4月1日付で組織改編を実施し、地域振興部を振興部に改称して観光局を新設した。産業労働部観光コンベンション課から振興部へ観光部門を移管した。また、外国人旅行者の誘客をより効果的に行うために、観光PRのためのキャッチワードおよびロゴマークの作成。キャッチワードは、「“Heart” of JAPAN ~Technology & Tradition」となった。

### ●三重県バリアフリー観光ガイド「みえバリ」の作成

三重県は、13年6月に、知事が、日本一のバリアフリー観光推進県を目指す「日本一バリアフリー観光県」推進宣言を行った。宣言に基づいて、障がい者、高齢者、妊婦、杖の利用者、ベビーカーを利用する家族連れなど、移動に困難を伴う方々に、可能な限り三重の魅力を楽しんでもらうために、県内の観光施設、体験・アクティビティ、交通アクセスなどを調査した。実際に旅行する際に必要な情報を、三重県バリアフリー観光ガイド「みえバリ」として整理、発刊した(15年3月)。その特徴は次の2点。NPO法人伊勢志摩バリアフリーセンターが伊勢志摩地域で培ったバリアフリー観光のノウハウを生かし、多くの観光事業者、交通機関などの協力を得てガイドブックを作成したこと、そして、施設の一般的なバリアフリー情報だけでなく、バリアを乗り越えてでも行きたい観光スポットの「魅力」に重点を置き、「行ける」場所ではなく「行きたい」場所を紹介していることである。掲載内容は、観光地・観光施設、体験・アクティビティ情報、交通アクセス情報、各施設のトイレ情報、宿泊施設情報。地域別には、伊勢・鳥羽・志摩エリア(32カ所)、東紀州(19カ所)、伊賀・名張(10カ所)、桑名・四日市・鈴鹿(19カ所)津・松阪・奥伊勢(19カ所)が紹介されている。

### (広域・市区町村)

#### ●富山駅前での「きとときと市場 とやマルシェ」などの開設

北陸新幹線の玄関口となる富山駅前に3月14日、3つの商業施設が開設した。富山駅高架下東側の「きとときと市場 とやマルシェ」はJR西日本の関連会社富山ターミナルビル株式会社が運営。富山ならではの魅力ある商品・サービスを提供するとともに、ビジネス・観光の拠点として、ヒト・モノ・文化の交流ゲートとして機能する、地域活性化の拠点として整備された。路面電車の西側の「クラルテ」および新幹線改札口横の駅ナカ店舗は、株式会社ジェーアールサービスネット金沢が運営した。

#### ●「黒部市地域観光ギャラリー」の開設

15年3月14日に開業を控える北陸新幹線新駅「黒部宇奈月温泉駅」の隣に、13日に「黒部市地域観光ギャラリー」が開業した。施設は大きく展示、観光案内、土産物販売コーナーで構成される。観光案内では、一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局(第2種旅行業登録)が黒部・いかわの観光案内や多くの旅行商品を取り扱う。

### ●「ひみ風の会」の設立

富山県氷見市では、女性ならではの視点で観光PRなどに取り組む民宿の女将を中心とした組織「ひみ風の会」を氷見市観光協会の女性会員で発足した。観光や地場産業の発展と地域活性化を目指して活動に取り組む。15年6月には、「DEEP氷見Studyツアー」を実施し、会員12人が参加した。

### ●「ひみ漁業交流館 魚々座」の開業

富山県氷見市は、旧道の駅海鮮館をリノベーションし、15年4月21日に「ひみ漁業交流館 魚々座」を開業させた。「魚のまち氷見」で受け継がれ、磨かれてきた市民の知恵・技・歴史を生かし、このまちに住む楽しみと喜びを未来につなげていくことを目指して、漁具や民具を展示。漁網を編む体験や料理教室などを通して漁村文化に親しんでもらうことを企図して作られたものである。

### ●金沢駅観光案内所のリニューアルと福井県の観光案内

北陸新幹線金沢延伸に伴い、石川県と金沢市は、金沢駅の観光案内所をリニューアルオープンした。石川県、金沢市に関する観光案内に加えて、広域的な観光情報(福井県や長野県などの県外観光情報)も提供する。福井県のコンシェルジュも常駐している。手荷物配送サービスは、福井県あわら温泉へも対応している。

### ●「ル・キューブ金沢」の開業

金沢市武蔵ヶ辻交差点に、14年4月26日に複合ビル「ル・キューブ金沢」がオープンした。05年に撤退したダイエー金沢店の跡地に建設されたもので、地上10階建てで、商業フロア(1~3階)、事務室(4階)、賃貸マンション(5~10階)から構成される。商業フロアは、「かなざわはこまち」と呼ばれ、「美・健康・食」をそのコンセプトとする。

### ●「dining gallery 銀座の金沢」の開設

金沢市は、北陸新幹線開業に向けて、金沢の首都圏での魅力発信拠点「dining gallery 銀座の金沢」を14年10月30日に開設した。銀座1丁目の新築商業施設ビル「キラリトギンザ」の6階にあり、「銀座の金沢」は、「古き良きものだけでなく、今の金沢を感じていただきたい」という思いのもと、「金沢のヒト、モノ、コトとの交流、さまざまな体験を通じて」、金沢がもっと身近で感じられる場所であることを目指している。

### ●「野外恐竜博物館」の開設と化石発掘体験ツアーの実施

福井県勝山市に所在する県立恐竜博物館は、14年7月に開設された「野外恐竜博物館」で化石発掘体験ツアーを実施した。恐竜化石が発見された地層や恐竜の足跡化石を間近で見ながら化石発掘体験できる。恐竜博物館の研究者から、掘り出した化石の解説を直接聞くことも可能で、恐竜博物館発の専用バスで現地に移動。所要時間は約2時間(往復1時間、見学・体験が1時間)。ホームページから予約できる。

### ●「かつやまディノパーク」の開設

福井県勝山市にある長尾山総合公園に、15年4月24日、アミューズメント施設「かつやまディノパーク」が開業した。福井県立恐竜博物館西側の敷地1.5haに、人を感知して動く実物大の恐竜ロボット24体が設置された。開設は、東京にあるアミュー

ズメント施設の企画や運営を行う「ワック」。施設の運営は、同公園を管理する「NPO法人恐竜のまち勝山応援隊」に委託。屋内外恐竜関係施設がより集積することとなった。

#### ●山ノ内町でグループ「スノーモンキータウン」発足

長野県山ノ内町に位置する「地獄谷野猿公苑」は、年間4万人以上の外国人観光客が来訪する。スノーモンキーとして知られる当施設の知名度を活かし、外国人の滞在や町歩きに必要な情報を提供することなどを通じて地域活性化を図ろうと、14年12月に有志で構成されるグループ「スノーモンキータウン」が発足。15年1月には、湯田中渋温泉や志賀高原にある店舗、施設の情報やクレジットカードの使用可否などを掲載した英語版冊子「スノーモンキータウン・ガイドマップ」を発刊した。

#### ●原村における複数施設が相互乗り入れする実証実験

12年に発足した長野県原村観光連盟が、同村内のペンション宿泊者に村所有の温泉宿泊施設「樅の木荘」の食事(夕食)と温泉を提供するサービスを15年1月より試験的に実施。冬期の顧客獲得と、経営者の高齢化に伴う運営の負担軽減を目指したものである。3軒のペンションで宿泊と朝食を提供。支払いはペンションで行い、ペンションが村有施設に対して3,000円を支払う仕組みで試行された。

#### ●善光寺御開帳に合わせたパークアンドライド

長野県長野市では、7年に1度の善光寺御開帳を15年に迎えた(4月5日～5月31日)。当期間は、渋滞の発生が予想されることから、「善光寺及び市街地周辺交通渋滞対策部会」は、パークアンドライドを市内6カ所で実施。期間中の土日、祝日のうちの19日間に実施した。パークアンドレールライドを2カ所で、パークアンドバスライドを4カ所で実施した。市民に対しても同期間は公共交通を利用するよう、横断幕などを通じて呼び掛けた。

#### ●「HAKUBA VALLEY」での連携

大町市、白馬村、小谷村の3市村では、当該地域の共通の名称として「HAKUBA VALLEY」を使用している。3市村にまたがる北アルプスの11スノーマウンテンリゾートエリアを表す新しい呼称で、各リゾートが「ひとつになる」ことで、国際的に通用する価値の創造や発信可能な新エリアの創造を目指したものである。さらに、世界にアピールしていくためにロゴを公募、作成。平成26年2月公表以降、各種情報媒体などで使用されている。

#### ●北アルプス3市村観光連絡会による風評被害払拭対策

14年11月22日に発生した長野県神城断層地震による風評被害を払拭しようと、大町市、白馬村、小谷村で構成される「北アルプス3市村観光連絡会」は、12月8日に東京都内で記者会見を実施した。スキー場の開業に合わせて、安全性をアピールした。

#### ●妙高戸隠連山国立公園の指定

15年3月27日に、32番目の国立公園として妙高戸隠連山国立公園が指定された。群馬県、長野県、新潟県にまたがって指定されていた上信越高原国立公園の西側地域を分離独立させたもので、東部地域とは異なった優れた景観的特徴や利用特性があることから、再編がなされた。

#### ●時限的アンテナショップ「赤坂小布施町」の開設

長野県小布施町商工会は、14年9月26日に、東京赤坂にアンテナショップ「赤坂小布施町」を開設した。北陸新幹線金沢延伸と善光寺御開帳に合わせたもので、15年3月末までの営業を予定だった(15年6月現在も営業中)。店舗では、小布施名産の栗菓子やおやきを中心とした物販と小布施産の青果物や味噌などの加工品、伝統的な食のレシピによる飲食を提供している。

#### ●熱海市観光協会連合会の設立

静岡県熱海市は、熱海市各地区が一体となって市全体の観光振興を行うために、新法人「一般財団法人あたま観光局」の設立を目指して11年11月より関係者と協議した。財団法人熱海市振興公社と熱海市観光協会の合併なども視野に入れて、市内6地区(伊豆湯河原・伊豆山・熱海・多賀・網代・初島)で構成される「熱海市各地区観光協会連絡協議会」が協議を続けてきた。しかし、市議会の同意を得られなかったことから、14年5月に同連絡協議会は解散し、新たに「熱海市観光協会連合会」が設立された。今後は、連合会が市役所から補助金を一括で受け取り、各地区観光協会に配分し事業を実施する。

#### ●「あたま湯ったりアートフェスティバル」の開催

静岡県熱海市では、14年に芸術や音楽などに関する新規イベント「あたま湯ったりアートフェスティバル」を実施した。当フェスティバルは、市内各地でこれまで開催されていたイベントと新規に企画されたイベントなどを融合し、一体のものとして再編集し、魅力づけしたものである。各種企画は「ART」「FOOD」「MUSIC」の3つのカテゴリーで提供。9月13日～12月24日の103日間、開催された。

#### ●東伊豆町における地域を挙げた観光人材の確保

静岡県東伊豆町は、13年に引き続き、14年4月22日に、東京都内で旅館の合同就職説明会「東伊豆温泉旅館合同企業ガイダンス」を開催した。主催は東伊豆町商工会で、町内にある6温泉地から温泉旅館11軒が出展した。町の補助金を活用して、地域および業界として人材確保に取り組む。結果、14年は説明会に88人の学生が参加した。

#### ●本美濃紙の世界無形文化遺産登録

岐阜県美濃市に継承される「本美濃紙」が、14年11月に国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の世界無形文化遺産に登録決定された。すでに09年に登録済みの「石州半紙」に、「本美濃紙」と「細川紙」の2紙を加え拡張して、国指定重要無形文化財三紙で登録された。

#### ●「テラスゲート土岐」の開業

中日本高速道路株式会社(NEXCO中日本)は、全国で初めて高速道路会社による複合商業施設「テラスゲート土岐」を土岐南多治見ICの近い土岐市土岐ヶ丘に4月24日開業した。ショッピングセンター「オーワーク」や温浴施設「よりみち温泉」(4月1日開業)、地域連携施設「まちゆい」で構成される。

#### ●「名古屋ゼロゲート」の開業

株式会社パルコは、14年10月10日に、名古屋市栄地区に商業施設「名古屋ZERO GATE(ゼロゲート)」を開業した。ゼロゲートは、立地の良さを活かし、事業規模に応じた効率的運営



を実施する都心部一等地の中低層商業施設で、全国で5番目の開業となる。地上3階、延べ床面積は約7,500㎡。

●株式会社ラグーナテンポスによる「ラグーナ蒲郡」の運営

愛知県蒲郡市に位置する複合レジャー施設「ラグーナ蒲郡」は、14年8月1日よりHISの新子会社「株式会社ラグーナテンポス」が運営を行っている。愛知県、蒲郡市、トヨタ自動車などが出資する「蒲郡海洋開発株式会社」（同社は15年1月1日に解散）が、主要3事業「ラグナシア（テーマパーク事業）」「フェスティバルマーケット（ショッピングモール・レストラン事業）」「ラグーナの湯（タラソテラピー事業）」を譲渡した。日本初の3Dプロジェクトマッピングの実施や名古屋駅と施設を1日2往復する直行バス、蒲郡駅から施設への無料シャトルバスの導入などにより集客の増加を図る。14年11月には、第三者割当てによる資本金および資本準備金の増資を行った。

●第2次鳥羽市観光基本計画および漁業と観光の連携促進計画の策定

三重県鳥羽市は、14年度に「第2次鳥羽市観光基本計画」と「漁業と観光の連携促進計画」の2つの計画を策定した。観光基本計画は、08年1月に策定された第1次計画が5年を経過することから見直しが行われた。国際的な滞在拠点を目指した「鳥羽うみ文化」の継承と創造を目標像として掲げ、その実現に向けた基本戦略として6つの戦略を掲げる（表IV-4-3）。

また、鳥羽市は漁業と観光を主要産業としており、宿泊施設、観光施設などでの海の幸の提供が重要な観光魅力の一つとなっている。しかし、魚介類の消費減少による水揚げ価格の低迷など、地域漁業は課題を抱えていることから、鳥羽市は、「漁業と観光の連携促進計画」を策定した。計画期間は、平成27年度から平成36年度までの10年間。海女を含む漁業者の所得向上と漁村の活性化を図ることを目的に、漁業と観光業が連携し、それぞれの強みと魅力を活かした事業を展開していく（表IV-4-4）。

●桑名市による東京PR事務局の開設

三重県桑名市は、14年度を「ブランド元年」と位置づけ、桑名の観光・産業など積極的に全国にPRし、全国的な知名度向上と誘客につなげる活動を実施。市役所の組織改編を行い、

これまでの「広報広聴課」を廃止し、桑名の魅力を発信する「ブランド推進課」を4月1日付で新設した。14年5月28日には東京都港区に「桑名市東京PR事務局」を開設した。全国の広告会社を会員とする一般社団法人日本地域広告会社協会に事務所を置き、協会スタッフが常駐。首都圏メディアの問い合わせに対応する。

（後藤健太郎）

表IV-4-3 第2次鳥羽市観光基本計画の概要

項目	内容
目標像	国際的な滞在拠点を目指した「鳥羽うみ文化」の継承と創造
基本戦略	1. 鳥羽うみの豊かな食を提供する 2. 鳥羽うみの文化を伝える 3. 鳥羽での滞在をより魅力的なものにする 4. 美しい景観を提供する 5. 外国人観光客に魅力を伝える 6. 鳥羽を発信する
	観光基盤整備
基本戦略	7. 観光基盤の充実・強化 8. 観光推進体制の構築

資料：「第2次鳥羽市観光基本計画」をもとに（公財）日本交通公社作成

表IV-4-4 漁業と観光の連携促進計画の概要

項目	内容
10年後の目指すべき姿	鳥羽の漁業と漁村、漁業者が観光と連携することによって付加価値を高め、鳥羽ブランドの一翼を担います。そして漁獲高・漁獲量ともに増加し、再び活力を取り戻します。
目標と戦略	①鳥羽で獲れた旬の“海の幸”のさらなる消費拡大を図ります ②鳥羽の“海の恵み”をアピールし、ブランド力を高めます ③鳥羽の海が育てた「鳥羽うみ文化」を大切に継承し、未来に向けて発展させます
「漁観連携」の戦略～鳥羽の「漁業」と「観光」を結ぶ5つの視点～	1. 鳥羽の“海の恵み”を伝える〈情報発信〉 2. 鳥羽の“海の幸”を食べる〈地産地消〉 3. 鳥羽の“海”を体験する〈鳥羽うみ体験〉 4. 「鳥羽うみ」の“文化”と“恵み”を生かし、育てる〈鳥羽うみ育成〉 5. 鳥羽の漁業が再び元気になる〈漁業活性〉

資料：「漁業と観光の連携促進計画」をもとに（公財）日本交通公社作成